

【熊本日日新聞社賞】

めぐいにゃあどんときつね

荒尾市立緑ヶ丘小学校 1年 宮原 ゆりこ

きつねのこどもががけからおちそうだったとき、おかあさんぎつねは、「いますぐたすけるから、てをつないで。」とおもったことでしょう。このまましたにおちたら、こどもがしんでしまうかもしれないとおもって、どきどきしました。

めぐいにゃあどんがきがついて、きつねのこどもをたすけてくれたとき、わたしは、ああよかったとおもいました。おかあさんは、「ありがとうございます。」と、なんどもいったとおもいます。

それから、めぐいにゃあどんのさかながうれるようになったのは、きつねがおんがえしをしたのかもしれない。もしかしたら、かみさまがみていて、ごほうびをくれているのかもしれない。

わたしも、しんせつにしたことがあります。けしごむがおちているなどおもったとき、こまっっているかもしれないから、ひろってとどけたことがあります。

ともだちが、ころんだとき、「だいじょうぶ。」と、こえをかけにいったこともあります。おかあさんがいそがしそうなときは、おとうとのおせわや、おてつだいをしています。そのあと、いいことがおきたかどうかおもいだせません。でも、ともだちとなかよくすごせているので、かみさまが、みていてくれたのかもしれない。

だれかのやくにたつことをすることは、だれかがよろこんでくれるし、じぶんもしあわせになることだとおもいます。

これから、だれかのために、いろいろなしんせつをしていきたいとおもいます。